

令和4年度（2022年度）第5回吹田市入札等監視委員会 議事録

- 1 開催日時 令和5年1月5日（木）午後1時30分から午後4時30分まで
- 2 場 所 吹田市役所 高層棟4階 特別会議室
- 3 出席委員 （委員長職務代理者）高橋 明男
（委員） 小野 憲一

4 会議の概要

契約候補者の選定にあたり、プロポーザル方式の実施を予定している次の案件について、所管室課の担当者同席の上、その実施の適否の審議を行った。

案件	案件名
1	グループウェア再構築及び保守運用
2	*****
3	*****
4	*****
5	*****
6	*****
7	吹田市下水道設備台帳システム構築・保守委託業務
8	学事・援助金システム構築支援業務
9	欠番

5 議事録

○高橋委員長職務代理者 梶委員長が事情により御欠席されていますので、委員会規則第4条第3項の規定により、本日の委員会は、私が委員長の職務を代理いたします。皆様よろしくお願いいたします。本日は委員の半数以上の出席がありますので、委員会規則第五条第2項の規定により、本委員会は成立していますことを報告させていただきます。それでは、早速、次第1の予定価格1,000万円以上の業務等の契約におけるプロポーザル方式実施の適否について審議を行います。事務局から説明がありましたように、本日の案件9については取り下げて欲しい旨の依頼がありましたので、欠番とし、本日は8件の審議を行います。

次第2 抽出案件の審議について

【案件1】グループウェア再構築及び保守運用

- 高橋委員長職務代理者 資料は事前にいただいており、内容も確認していますので、担当課から補足することがあれば、説明をお願いいたします。
- 情報政策室 資料の修正があります。
- 高橋委員長職務代理者 委員の方からの質問に移りたいと思います。
- 小野委員 今度の新しいグループウェアの再構築ですが、今行っている市のいろんな業務プロセスと、その新しいグループウェアというのが必ずしも合わないような場合には、市の業務プロセスの方をそれに合わせていくことが必要になるわけですね。そういう業務プロセスの変更に対する支援というのも、この委託業務の中に入っているのでしょうか。
- 情報政策室 おっしゃるとおりでございます。クラウドサービスの利用というところを前提で考えていまして、どうしても業務プロセスとシステムとのこのミスマッチが、一定発生すると思っています。そういった部分についても、このプロポーザルで提案していただいて、事業者の方に支援いただくことを想定しています。
- 小野委員 その業務プロセスの変更の規模は、割と小さな工夫で足りるのか、あるいは割と大規模なプロセスの変更になるのか、そういう規模感というのはどんな感じでしょうか。
- 情報政策室 規模感でいくと、現行のグループウェアについて、オリジナルのグループウェアを我々の業務に一定合やす形で構築できた実例がありますので、ものすごく大きな変更とは考えていません。
- 小野委員 業務プロセスの変更によって、業務量と言いますか、職員の数にも影響するかもしれませんが、その点はいかがでしょう。
- 情報政策室 人口も減っていますので、それに合わせて、今後、よく2040年問題と言われるように、職員の数も自然に減ってくると思っていますので、ICTの利活用によって、カバーしていくということを考えていまして、積極的に職員を削減するというような目的の導入ではないです。
- 小野委員 分かりました。
- 高橋委員長職務代理者 梶委員長からの質問がありますが、これに関しては、おそらく本人じゃないと何とも言えませんが、回答で了解されるのではないかなと私自身は思います。
- 高橋委員長職務代理者 職員においては、常時システムを立ち上げておくような感じなんですか。
- 情報政策室 おそらく、今もそうしている職員が大半かと思われます。
- 高橋委員長職務代理者 他市がどんな状況なのか、今伺っただけでよく分かりませんが、こういうのを運用しているところ、他にあるのでしょうか。

- 情報政策室 グループウェア自体は、中核市以上だと多分どこの市も入れているようなものなので、多分、現在の状況でいくと、ほとんどの市は入れていると考えていただいて大丈夫だと思います。
- 高橋委員長職務代理者 ただ、他の市も使っているようなものがあるのだったら、パッケージをそのまま購入するというのをすれば、やっぱり現在の機能とのすり合わせとか、現在の機能に備わってないものも、あったりするのですかね。そういうことで、パッケージを購入するのは難しいということでしょうか。
- 情報政策室 そういう意味では、今の業務と新システムで一致しない部分はどうしてもあることは受け入れたうえで、クラウドもパッケージと同じように、既にあるものを利用するといったような形態にはなるのですが、そういったものを取り入れようというふうに考えております。
- 高橋委員長職務代理者 そのクラウドのサービスを使うということは、今回の場合必要のところだということが分かりましたが、そうすると、現在の吹田市の独自のこのグループウェアのやり方をできるだけ生かして、しかしクラウドを利用する形で、言わば独自のシステムを作ってくださいというのが、この案件という理解でよろしいですか。
- 情報政策室 今から入れようとしているシステムは、パッケージになりまして、クラウド上のサービス利用の形になりますので、システム上の設定とか、機能の組み合わせによって独自性は一定は出るのですが、多彩な機能がもう既に搭載されているようなパッケージになりまして、それをどう利用していくかという形で、独自部分をどうカバーするのかってところだと考えています。
- 高橋委員長職務代理者 そういうふうなグループウェアについては、どれぐらい業者数が、他の市も含めてあるのですか。
- 情報政策室 製品としては、大きな製品で2つあります。事業者としてはその製品を代理店みたいな形で売っているところもありますので、何者来るかと言われると、事前にRFI、情報提供依頼していますが、その時は3者来ていますので、そのぐらいは来るのかなと想定はしています。
- 高橋委員長職務代理者 その2つともが、それぞれ3者のうち2者使ってという形で、応札してくれるだろうという見込みですか。
- 情報政策室 そうですね。その2つ、プラス、メジャーではないところも加わってくるのかなと思います。
- 高橋委員長職務代理者 特にこの案件について、問題はないというように思いますので、プロポーザル方式での実施をしようというふうに判断いたします。

【案件7】吹田市下水道設備台帳システム構築・保守委託業務

- 水再生室 補足事項になるのですが、今回下水道設備台帳システムということですが、対象が下水処理場になりまして、約3,000から3,500ぐらいある処理場に関する設備

を管理するシステムということで考えています。

- 高橋委員長職務代理者 案件 6 は下水道の管路で、こちらの方は下水処理場とポンプ場に関しての台帳システムということですね。
- 水再生室 はい。
- 小野委員 この業務の契約期間が令和 5 年 9 月 1 日から令和 12 年 3 月 31 日と 6 年半という長期になっていますが、長期の契約である必要性について、どのように考えたら良いでしょうか。
- 水再生室 システム構築として、まず令和 5 年度、6 年度で考えていますが、それが費用の中の大半を占めますので、その後の保守にかかる費用は少ないので、他市の事例を見ても大体 5 年程度が多かったのもので、システム構築から 5 年間は運用し、その次に向けてまた次のシステムを考えていくという形にしています。そして費用面を考えるとある程度運用期間も長めの方が年割にすると安くなると考えています。
- 小野委員 要するに次の更新時期まで一括してという形での契約だということですかね。
- 水再生室 そうですね。一応、その保守契約も構築した後に考えていまして、構築した事業者にお任せすることになりますので、その契約も一本で任せて、今回の契約の中で審議したいと考えています。費用面では、後々契約すると高くなるので、そこも含めて審議して、令和 5 年から令和 11 年まで契約したいと思います。
- 高橋委員長職務代理者 今回このシステム構築の保守委託を一本化するということは、システム構築と保守委託を切り離すことができないという判断があるのですかね。
- 水再生室 このシステム自体が、下水処理場のシステムで、ある程度専門の事業者にお任せする必要があるのもので、保守と構築自体を切り離すのが少し難しいと考えています。
- 高橋委員長職務代理者 こういった業務の委託は、他市でも大体プロポーザルですか、それとも、プロポーザルでないところはあるのですか。
- 水再生室 プロポーザル以外でしているところもありますが、我々が見聞きする中ではプロポーザルでしているところは一定数あります。調べる限りでは指名競争入札のところもありますが、指名になると仕様書に基づく金額の勝負になるので、やはり市の求めているものでない者が入って来ることを考えると、価格だけで決めるのは少しリスクがあるかと思います。
- 高橋委員長職務代理者 要するに仕様書で決めてしまって、プロポーザルで提案してもらった機能等を見逃してしまうのを少し避けたいということですかね。そういう機能というのは、プロポーザルで提案してもらわないと分からないのですか。
- 水再生室 まだ下水道の設備台帳システムというものが確立されていなくて、発展途上の状態で、例えばこのシステムから最終的には、点検データや、維持管理情報を全部蓄積して故障データも含めて長期的な視点で効率的に管理し、更新計画を立てていくところが最終目標なのですが、今、完全に確立されていないので、良いものを今探している段階なので、よりよい提案をしてもらえるところはあると思います。
- 高橋委員長職務代理者 直営するところもあると思いますが、このようなものについて委託しているところはどれぐらいですか。

- 水再生室 直営でしっかりしたものを作っているというのはあんまり聞かないです。
- 高橋委員長職務代理者 そうすると、プロポーザルの契約方式をベースにして、ほぼ委託しているということですね。
- 水再生室 そうです。機器点数が多いのと、データとして取り込むだけでしたら、3,500あるシステムの管理もできないことはないと思いますが、それを活用して管理するには一定の知識ですとか、システムの開発能力が必要となるので、私たちが聞いた限りでは直営でこのようなことをしているところはないです。
- 高橋委員長職務代理者 そうすると、今開発途上でこのようなシステムをどの市でもしているのだったら、標準化できて良いのではという気がするのですが、それは難しいのですか。
- 水再生室 この業務に関して言いますと、最終的なストックマネジメントというのは、リスク評価ですとか、その保守、健全度評価、故障が起きたときのリスク等を考えながらしていくので、リスクや健全度を出す基準が、色々なデータを組み合わせていかないと、ただ単に10年経ったら替えるというわけにはいかないで、なかなかはっきりと決まってない状態です。国交省が下水道を所管していますが、こういうことを全国的に標準化するために、整理してガイドラインを作っているところですが、まだその作業も追いついていません。これからどのように導入していくとか等、どこかの段階では、徐々に標準化になっていくと思いますが、今はまだ過渡期という状況です。今年度中に、国交省の下水道部と下水道協会で、この下水道の台帳システムの導入の手引きを整理しようとしていまして、それは維持管理情報を起点としたマネジメントサイクル確立に向けたガイドラインに準拠した形で作られると聞いていますので、私たちもそれを参考にしてシステム構築の仕様書等を作っているところです。
- 高橋委員長職務代理者 先ほどのリスクや評価など健全度の判定基準が独自過ぎて、他には使っていないような基準を吹田市も採用できないと思いますので、ある程度の汎用性はないと困ると思うのですが。ゆくゆくは標準化の方向に向かっていくので、そうすると、それを使用することも出来ると思いますが、現段階では、プロポーザル以外のやり方ですするにはまだ技術的な点が詰まっていないということですね。
- 高橋委員長職務代理者 この案件については、当委員会ではプロポーザル方式での実施が適しているものと判断いたします。

【案件8】学事・援助金システム構築支援業務

- 小野委員 業務説明書の中で、システムを導入するに当たって、現在行っている市の業務システムも、標準化に向けて変えていくという内容になっていますが、標準化出来ずに残る部分もあるのでしょうか。あるは、どういうものが標準化できないものとして残るのかという点はいかがでしょうか。
- 学務課 国で学事援助金システムという部分が標準化されまして、それ以外の吹田市独自の部分については、標準化はされていないので、残されることはあり得ます。ただそ

の標準システムと連携ができるように、改修等を行う必要があります。改修ができなければ、再構築を行わないといけないので、今回のプロポーザルではそういったシステムをどのように構築するかという部分についても、提案を受けるといった想定をしています。

○小野委員 全体の規模感が良く分からないですが、かなりの部分は標準化が求められていて、そうでない部分もあるので、両方とも並行して運用していき、その間に連携が取れるようにしましょうという理解で良いのでしょうか。

○学務課 そうです。

○小野委員 予算の額としては、2,827 万円ということで、契約期間がここに書いてあるとおりということになると、業務量はどのぐらいの人数でどのぐらいの時間を要するような業務と考えたら良いですか。3 年弱の期間で、2,827 万なので、年にすると数百万円規模の予算ということになるのですが、その数百万円規模での業務量はどれぐらいですか。

○学務課 業務の内容としましては、国が標準化で示している仕様書の部分については、大きな業務量を割く部分ではないと思いますが、本市の独自の新しいシステムと連携していくためのシステムを組み立てる仕様書を作成する部分と業務再構築を目指すので、それに沿って、なるべくシステムを入れることによって業務の負担軽減もしていきたいと思っています。業務負担軽減をするに当たっては、電子申請の取り組みであるとか電子化できる部分について、知識や技術を取り入れて情報収集していく必要があります。あとは契約期間を長めにしているのですが、実際の進捗管理の部分についても、別々に支援をいただきたいと思っていますので、実際にどれぐらいの人数が必要かというのは申し上げることはできないですが、相当の人数がそれぞれの業務について必要になると思っています。参考には業者から、見積もりを徴収している中で工数はこのぐらいというようなところはあるのですが、それを具体的に何日ということまでは申し上げることができません。

○小野委員 人口数がどれだけで、単価がいくらでということ積算しておられるのかと思いますが、そういう積算方法でしょうか。

○学務課 そうです。

○小野委員 積算するとこの金額になりましたということですね。昨年 9 月の段階での調査では、近隣の自治体で現在契約締結しているところはまだないということですが、この状況は今でも基本的に変わっていないですか。

○学務課 それ以降に新たな調査を行っていないですが、聞くところでは、まだ検討段階のところが多かったので、そこから契約締結に進んでいるところは、あまり考えられません。

○高橋委員長職務代理者 こういうシステムは、最初のシステム開発が一番お金かかるのだろうと思うので、吹田市が最初にすると初期費用の部分を全て負担して、他の市の方は部分開拓だけで対応できることになるので、吹田市にとって見たら他の市よりも先にしてしまうことで、割高な契約になってしまう恐れはないのかなという部分が気

になっているのですが、そこはどうですか。

- 学務課 本市の独自の制度ですとか運用というところがありますので、それが他の市にすぐに活用されるかは絶対的なものではないと思います。
- 高橋委員長職務代理者 ただ、一番の標準化対応する核の部分はどこでも当然使えるものになると思うのですよね。付加的な部分に関してその分費用を支払うというのは当たり前の話ですが、核の部分に関して、最初にするがために、新規開発費用を引き受けてしまいませんか。
- 学務課 今回は、システム構築支援業務ということでシステム開発自体とはまた別に業務委託をする予定になっています。今回は事前にコンサルによる支援を受けるということになります。システム開発の部分は国の標準化に従って標準の仕様書があるので、それに従ってシステム開発をするので、核の部分については他市も変わりはないと思います。
- 高橋委員長職務代理者 そうだったらいいのですが、業者は最初に利益回収をしようと思わないかが少し気にはなったのですが、ただ、当然プロポーザルなので、価格に関しても価格提案とが当然あるでしょうから、競争が働かないわけではないと思います。3者程度が応募するだろうという見込みだということですが、この3者ではほぼ間違いないですか。
- 学務課 そう思っています。
- 高橋委員長職務代理者 3者居れば、ある程度、価格に関しては違いがあると思いますので、応募数が少なかったら、少し懸念があったのですが。
- 高橋委員長職務代理者 この案件については、当委員会ではプロポーザル方式での実施が適しているものと判断いたします。
- 高橋委員長職務代理者 本日の審議案件は以上で終了いたしました。審議の中で、各委から出された委員意見については、後日、事務局の方で取りまとめていただきまして、ご報告をいただいた上、確認を終えた後、また市長に報告することといたします。それでは、以上をもちまして令和4年度第5回吹田市入札等監視委員会を閉会いたします。